



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月13日

上場会社名 株式会社オーイズミ 上場取引所 東
 コード番号 6428 URL http://www.oizumi.co.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)大泉 秀治
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)前田 信夫 (TEL)046(297)2111
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	3,451	28.5	276	13.6	246	△4.7	168	△16.3
27年3月期第1四半期	2,687	△2.3	242	15.1	258	1.3	201	8.0

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 163百万円(△18.5%) 27年3月期第1四半期 200百万円(5.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	7.50	—
27年3月期第1四半期	8.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	33,225	14,475	43.6
27年3月期	32,667	14,312	43.8

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 14,475百万円 27年3月期 14,312百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	—	—	0.0	0.0
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	9.0	17.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月31日を基準日とする剰余金の配当は無配といたしました(平成27年6月12日付「剰余金の配当(無配)に関するお知らせ」をご参照ください。)が、平成27年6月30日に開示いたしました、「剰余金の配当に関するお知らせ」のとおり、平成27年7月21日を基準日とする剰余金の配当を8円といたしましたので、平成28年3月期(予想)については、期末9円と合わせて合計17円としています。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,600	68.3	1,100	120.1	1,000	94.4	600	64.3	26.67
通期	15,700	△2.6	1,850	1.9	1,840	17.7	1,100	162.7	48.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、前連結会計年度まで非連結子会社であった株式会社レッド・エンタテインメント及び株式会社インターグローは、重要性が増したことから、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年3月期1Q	22,500,000株	27年3月期	22,500,000株
28年3月期1Q	4,371株	27年3月期	4,321株
28年3月期1Q	22,495,649株	27年3月期1Q	22,495,779株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日)におけるわが国経済は、民間調査機関17社の試算によると平均で実質国内生産(GDP)は前期比率1.9%減とされ、個人消費や輸出が振るわず、3四半期ぶりのマイナス成長になったものと見られます。緩やかに回復してきた景気の足取りがやや重くなっている状況でありました。

当社グループのコア事業の販売マーケットとなる遊技場業界は、実質個人所得の伸び悩み、遊技参加人口の低迷傾向の影響もあって遊技場を取り巻く経営環境は依然として厳しいものでありました。

このような事業環境の中、当社グループは、開発・製造・販売・アフターサービスの一貫体制をもって付加価値向上に努めると共に、機器事業における周辺設備機器においては、メンテナンスフリーを実現する『樹脂研磨式メダル自動補給システム/クリスタルM』とセキュリティ管理と複数単価の営業をスマートに実践する『多機能ICカード玉・メダル貸機/WICA』を戦略商品と位置づけ、これの拡販に注力いたしました。

また、遊技機は、回胴式遊技機(パチスロ)の当第1四半期におけるリリースはありませんでしたが、機器事業全体の収益は前年同期を上回ることとなりました。

不動産事業においては、安定的に収益を確保いたしました。

福祉介護事業は前期第3四半期から連結子会社の株式会社アルプスの杜が有料老人ホーム等4施設を運営しておりますが、業績貢献には到っておりません。

電気事業は、連結子会社の神奈川電力株式会社が太陽光発電所2箇所(発電能力4メガワット)を稼働させており、新たに、発電能力20メガワットの太陽光発電所を建設中であります。

コンテンツ事業は、当第1四半期から連結子会社を含めることとした株式会社レッド・エンタテインメント及び株式会社インターグロー2社がパッケージゲーム、オンラインアミューズメント、ゲームソフト・アニメキャラクターの企画制作等の事業を行っており、当社グループの業績に寄与しつつあります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における連結業績は、売上高3,451百万円(前年同期比28.5%増)、経常利益246百万円(前年同期比4.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益168百万円(前年同期比16.3%減)となりました。

なお、セグメントの業績は、次のとおりであります。

(機器事業)

機器事業は、当第1四半期は売上高2,857百万円(前年同期比12.1%増)、セグメント利益321百万円(前年同期比12.0%増)となりました。

(不動産事業)

不動産事業は、当第1四半期は売上高150百万円(前年同期比3.8%増)、セグメント利益80百万円(前年同期比9.5%減)となりました。

(福祉介護事業)

福祉介護事業は、当第1四半期は売上高189百万円、セグメント損失37百万円となりました。

なお、福祉介護事業は、前第3四半期連結会計期間より報告セグメントとしております。

(電気事業)

電気事業は、当第1四半期は売上高57百万円、セグメント利益18百万円となりました。

なお、電気事業は、前連結会計年度末より報告セグメントとしております。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業は、売上高299百万円、セグメント利益37百万円となりました。

なお、コンテンツ事業は、連結範囲の変更に伴い当第1四半期連結会計期間より報告セグメントとしております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末(平成27年3月31日)に比べ557百万円増加し、33,225百万円となりました。

なお、前連結会計年度において非連結子会社でありました株式会社レッド・エンタテインメント及び株式会社インターグローを重要性が増したため連結の範囲に含めております。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ739百万円増加し、16,553百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加(759百万円増)、仕掛品の増加(758百万円増)、その他に含まれる前渡金の増加(98百万円増)の一方で、受取手形及び売掛金の減少(936百万円減)によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ182百万円減少し、16,671百万円となりました。これは主に連結範囲の変更に伴う投資有価証券の減少等(204百万円減)の一方で、連結範囲の変更に伴うのれんの増加(103百万円増)によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ394百万円増加し、18,749百万円となりました。これは主に1年内返済予定の長期借入金の増加(254百万円増)、株式会社レッド・エンタテインメントを連結の範囲に含めたことに伴う流動負債その他に含まれる前受金の増加等(270百万円増)、長期借入金の増加(1,131百万円増)、固定負債その他に含まれる長期預り保証金の増加(157百万円)の一方で、短期借入金の減少(1,123百万円減)、未払法人税等の減少(255百万円減)によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ163百万円増加し、14,475百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加(169百万円増)によるものです。

この結果、自己資本比率は43.6%と前連結会計年度末に比べ0.2ポイント減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成27年6月30日付決算短信の発表数値からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,382,467	7,142,359
受取手形及び売掛金	5,073,988	4,137,735
商品及び製品	993,871	1,048,941
仕掛品	573,915	1,332,758
原材料	1,320,419	1,397,136
コンテンツ	—	47,662
繰延税金資産	203,953	187,569
その他	1,278,250	1,262,803
貸倒引当金	△13,059	△3,414
流動資産合計	15,813,808	16,553,552
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,700,608	3,619,395
土地	7,742,506	7,710,959
その他(純額)	3,232,513	3,203,592
有形固定資産合計	14,675,628	14,533,947
無形固定資産		
ソフトウェア	32,545	67,430
のれん	266,385	370,347
その他	12,695	18,730
無形固定資産合計	311,626	456,507
投資その他の資産		
投資有価証券	794,982	590,265
長期貸付金	509,166	526,666
繰延税金資産	1,723	3,238
その他	823,425	833,903
貸倒引当金	△262,900	△272,879
投資その他の資産合計	1,866,398	1,681,194
固定資産合計	16,853,652	16,671,650
資産合計	32,667,461	33,225,202

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,659,939	3,703,830
短期借入金	2,296,000	1,172,450
1年内返済予定の長期借入金	1,499,071	1,753,955
未払法人税等	326,355	70,480
賞与引当金	57,508	102,168
製品保証引当金	18,000	16,000
返品調整引当金	—	1,609
受注損失引当金	—	491
その他	554,538	688,360
流動負債合計	8,411,413	7,509,346
固定負債		
長期借入金	8,105,510	9,237,048
繰延税金負債	38,420	36,312
役員退職慰労引当金	467,547	469,869
退職給付に係る負債	48,813	50,505
資産除去債務	63,543	68,813
その他	1,220,106	1,377,768
固定負債合計	9,943,941	11,240,317
負債合計	18,355,355	18,749,664
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,006,900	1,006,900
資本剰余金	673,700	673,700
利益剰余金	12,567,295	12,736,466
自己株式	△4,091	△4,137
株主資本合計	14,243,804	14,412,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	68,302	62,610
その他の包括利益累計額合計	68,302	62,610
純資産合計	14,312,106	14,475,538
負債純資産合計	32,667,461	33,225,202

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	2,687,303	3,451,909
売上原価	2,100,063	2,692,797
返品調整引当金繰入額	—	1,609
売上総利益	587,240	757,502
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	29,761	71,084
販売促進費	2,384	4
役員報酬	47,781	57,860
給料手当及び賞与	50,685	72,246
賞与引当金繰入額	13,148	17,110
退職給付費用	9,067	6,434
役員退職慰労引当金繰入額	2,321	2,321
その他	189,095	254,325
販売費及び一般管理費合計	344,245	481,388
営業利益	242,994	276,114
営業外収益		
受取利息	717	114
受取配当金	10,441	5,420
その他	14,722	12,186
営業外収益合計	25,881	17,720
営業外費用		
支払利息	8,571	27,522
貸倒引当金繰入額	—	10,000
その他	1,902	9,984
営業外費用合計	10,474	47,506
経常利益	258,401	246,327
特別利益		
投資有価証券売却益	23,719	—
特別利益合計	23,719	—
特別損失		
固定資産除売却損	—	15,488
特別損失合計	—	15,488
税金等調整前四半期純利益	282,121	230,839
法人税、住民税及び事業税	68,168	47,418
法人税等調整額	12,227	14,598
法人税等合計	80,395	62,016
四半期純利益	201,726	168,823
親会社株主に帰属する四半期純利益	201,726	168,823

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	201,726	168,823
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△1,511	△5,691
その他の包括利益合計	△1,511	△5,691
四半期包括利益	200,214	163,131
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	200,214	163,131

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	機器事業	不動産事業	計	調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	2,549,228	138,074	2,687,303	—	2,687,303
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	—	7,350	7,350	△7,350	—
計	2,549,228	145,424	2,694,653	△7,350	2,687,303
セグメント利益	286,672	88,572	375,244	△132,250	242,994

(注) 1 セグメント利益の調整額△132,250千円は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	機器事業	不動産事業	福祉介護事業	電気事業	コンテンツ事業	計	調整額(注)1	四半期連結損益計算書計上額(注)2
売上高								
(1)外部顧客に対する売上高	2,844,710	143,622	189,467	57,790	216,318	3,451,909	—	3,451,909
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	12,340	7,350	—	—	83,333	103,023	△103,023	—
計	2,857,050	150,972	189,467	57,790	299,651	3,554,932	△103,023	3,451,909
セグメント利益又は損失(△)	321,013	80,116	△37,509	18,855	37,694	420,170	△144,056	276,114

(注) 1 セグメント利益の調整額△144,056千円は、主に提出会社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度において非連結子会社でありました、株式会社レッド・エンタテインメントを重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

なお、当第1四半期連結累計期間における当該事象によるのれんの増加額は、「コンテンツ事業」において113,827千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前連結会計年度において非連結子会社でありました、株式会社レッド・エンタテインメント及び株式会社インターグローを重要性が増したため連結子会社としたことに伴い、同2社が運営する「コンテンツ事業」を新たに報告セグメントといたしました。